

令和6年度第1回蓮田市社会教育委員会議 会議録					
開催日時		令和6年10月25日（金）			
		午後1時30分 開会		午後3時00分 閉会	
開催場所		蓮田市役所 3階 301会議室			
委員出席状況		氏 名	出 欠	氏 名	出 欠
		今井 和	出席	佐々木 隆彦	出席
		栗原 均	出席	田辺 雅治	出席
		小池 祐子	出席	松本 直大	欠席
		近藤 純枝	出席		
事務局出席者		小宮生涯学習部長 （社会教育課）横田生涯学習部参事兼社会教育課長、 飯野副主幹、古賀主任、高森主事、山崎主事、三田主事補			
傍聴者		なし			
会議事項	議 事 ・令和6年度の主な社会教育事業進捗報告について ・ボランティアの募集について				
会議経過（議事の要旨）					
会議の開催に先立ち、小宮生涯学習部長より委嘱を行った。					
1. 開会 小宮生涯学習部長より挨拶を行った。					
2. 自己紹介 委員及び事務局から自己紹介を行った。					

3. 社会教育委員についての説明

事務局より、蓮田市社会教育委員の概要について説明を行った。

4. 委員長・副委員長選出

事務局からの提案のとおり、今井委員長、栗原副委員長に決定した。

5. 議事

資料に基づき、以下の報告及び協議を行った。

①令和6年度の主な社会教育事業進捗報告について

②ボランティアの募集について

【質疑・主な意見】

①令和6年度の主な社会教育事業進捗報告について

(社会教育課実施事業について)

《委 員》 少年キャンプ推進事業について、プログラムの内容、アイスブレイク、自然遊び、ARウォークラリー等、活動の詳細を伺いたい。

《事務局》 アイスブレイクとは研修等でも実施されるものであるが、参加者同士の理解を深めたり、その後の活動が円滑に進むように実施する心の準備運動のようなものである。自然遊びについては、実施が秋ということもあり、いろいろな形の落ち葉、どんぐりや栗などの木の実などを使って実施する予定である。具体的には、黒浜貝塚にある落ち葉や木の実、石などを使って、子どもたちの自由な発想で紙皿に盛り付けてもらい、作品のタイトルを付けてもらう「森のお弁当箱」の実施を予定している。ARウォークラリーについては、専用のアプリケーションをインストールしたスマートフォンやタブレット端末を使用して実施する。ARポイントが5つあるため、子どもたちに1つ1つ回ってもらい、各所の特徴や景色などをARを通じて見てもらうことで子どもたちに黒浜貝塚の歴史を感じてもらうものである。

《委 員》 VRは活用しないのか。

《事務局》 VRのシステムは文化財展示館内のコンテンツになる。また、13歳未満の子どもについては、視力等に良くない影響が出る可能性があるとされているため、現時点では子どもの使用についてはあまり推奨していない状況である。そのため、今回は外でARを使用した体験を考えている。

《委 員》 現在応募はどれくらいか。

《事務局》 現在2組の応募がある。今後、追加で募集をかける予定である。

《委 員》 ARとは何の略なのか

《事務局》 augmented reality（オーグメンテッド・リアリティ）と言われており、日本語では拡張現実と呼ばれている。

《委 員》 今回初参加の委員もいるため、放課後子供教室についてももう少し詳しく説明をお願いしたい。また、平野小学校と黒浜南小学校では今までどおり活動をするのか。

《事務局》 それでは、もう少し詳しく説明させていただく。現在、放課後子供教室は平野小学校と黒浜南小学校で実施している。平野小学校では自由遊びを中心に行う「ひらりんきっず」と学習支援を中心に行う「ひらりんすたでい」の2つを軸に活動をしている。ひらりんきっずについては2年生～6年生を対象に実施しており、ひらりんすたでいについては、2～3年生を対象に実施している。ひらりんきっずについては5月～9月で延べ13回活動を実施している。参加者については延べ695名であった。1回あたり50名程度の児童が参加している。ひらりんすたでいについては延べ10回実施している。参加者については延べ58名であった。1回あたりの参加者は5～10名程度となっている。次に黒浜南小学校では地域の皆さまにご協力いただき、絵手紙や折り紙、竹細工などの文化活動を実施している。黒浜南小学校は1年生～3年生を対象に活動を実施している。5月～9月（7月と8月を除く）

までで、月１～２回活動を実施しており、１回あたりの参加者は２０名程度となっている。加えて今年度の新たな試行事業として、黒浜小学校と蓮田中央小学校で放課後子供教室を実施する予定である。

《委員》 少年キャンプ推進事業について黒浜貝塚を使用して実施するとのことであり、内容については十分に理解していただけるものであると思う。しかし、先ほどもあったが、申込者が２組ということで、もう少し何かやりようがないかと思う。小学生を対象に実施するため、子どもたちの目を引くようなものがあれば良いと思う。

《委員》 新型コロナの前までは宿泊を伴うキャンプを行っていたと思う。子ども会の意見で「なぜキャンプがないのか。」ということをよく聞く。蓮田市子ども会では今年８月にキャンプを実施しており、来年２月にもキャンプを実施する予定である。８月のキャンプでは小学１年生～３年生を対象にしており、定員４０名に対し、少し超えるくらいの応募があった。高学年の方から要望がある状況である。このような状況をふまえると、遠くまで行かなくても加須や秩父などの公共施設を活用しながら宿泊を伴うキャンプをもう一度検討してみても良いのではないかなと思う。

《委員》 人材バンク事業で実施している１日講座について「こんなのやってみたい」や「あんなのやってみたい」というような今後の新たな企画は何か考えているか。

《事務局》 １日講座については、年によって色々な講座があり、講師に企画を持ち込んでいただき実施する事業になる。毎年企画を応募する講師が異なるため、実施する講座も毎年異なっている。

《委員》 講師目線での講座になるため、市民がやりたいと希望する講座を実施するために何か良い方法がないかと思っている。

《事務局》 講座終了後にアンケートを実施しており、アンケート項目に、今後体験してみたい学習、体験してみたい分野を伺う項目を設けている。最も数が多いのは、体操・ヨガになっている。今年度実施講座としては、ZUMBA やバランスボール、ヨガ、笑いヨガなどがある。人気のあるジャンルは講座企画としても集まりやすい分野である。

《事務局》 1 日講座については、人材バンク制度の P R も兼ねて、人材バンク登録者が企画するものであり、自主企画とは異なるため、受講者の要望通りの講座を実施することは難しいかもしれないが、1 日講座のアンケートで受講者からいただいた声は他の自主企画等でも参考とし、活かしていけたら良いと思っている。

《委 員》 成人式については昨年度から、コロナ禍前と同様の 1 回開催としているが、コロナ禍前と後では出席率はどうなっているか。

《事務局》 今年の 1 月に開催した成人式は過去 5 年間で最も出席率が高かった。

《委 員》 人材バンクの予算はどれくらいで、どれくらい使われているか。

《事務局》 令和 6 年度の予算額として、報償費 5 6, 0 0 0 円を持っている。1 講座につき 2, 0 0 0 円× 2 8 講座の予算となっている。

《委 員》 講師に対してある程度お金をかけてさしあげる必要があるのではないかと思う。資格をお持ちの方とそうでない方の棲み分けは必要ではあると思うがどのように考えているか。1 日講座は地域の方たちを中心に考えており、良い講師に良い指導をしていただくという考えとは若干違うということか。

《事務局》 人材バンクの 1 日講座については、講演会のように講師をお呼びして開催するものではなく、人材バンク登録者に体験講座を実施しているため、地域の

方はもちろん、様々な講師がいる。

《委 員》 イメージとしては持ち込み企画ということで良いか。

《事務局》 1日講座については持ち込み企画になる。

②ボランティアの募集について

《事務局》 成人式 二十歳を祝う会や少年キャンプ事業等において学生ボランティアを募集しているがなかなか集まらない現状であるため、委員の皆さまにご意見を伺いたい。

《委 員》 依頼する学校との話し合いになると思うが、ボランティアに参加すると単位がもらえるなどの条件があれば、学生は興味を持つのではないかと思う。
ボランティア証明を市が発行し、大学が単位を出すなどができれば良いと思う。

《事務局》 過去にボランティアを募集したもので、証明書の発行依頼があり、お渡しした前例はある。

《委 員》 子ども会でキャンプを実施したときにもボランティアを募集したが、13名程度の応募があり、ボランティア証明の発行依頼もなかった。早めに募集をかけたことも効果があったのではないかと思う。若い人に対し、ポイントとなるところを上手くPRできるかどうかが重要だと思う。

《委 員》 ボランティアに参加したら、何か面白いことができそう、指導ができそうと思えるようにすることが必要だと思う。

《委 員》 ボランティアは交通費もでないのか。

《委員》 基本的には出ない。

《委員》 社会貢献を学校で学ぶことはとても大事なことだと思う。社会貢献ができる子どもを育てるために、ボランティアを単位として認めても良いのではないかと思う。最初から対価として求めるわけではないが、ボランティア活動が大事であることを広めるためには必要なことであると思う。

《委員》 参加したことで自分がどれだけアップデートできたかという風に思えるようなところをPRしていくやり方が必要であると思う。

《委員》 PR文章をどのように作っていくかが一番ポイントだと思う。普通に出してしまうと恐らく埋もれてしまうと思う。普通に出したら恐らく応募が来ないので、特筆すべきポイントをアピールして、うまく心を掴める仕様にしないと参加者を集めるのは難しい。しかし、そこが腕の見せ所だと思う。

《委員》 何をやらされるか分からないよりは、どんなことをやるかが具体的に分かると興味をもってもらいやすいと思う。

《委員》 ボランティアをやりたい人は意外と多い。皆さんが思っている以上にいる。特に大学1年生や2年生で教育関係を勉強している子たちは興味をもっている方が多い。

《委員》 大学生はボランティアと言われると、自分が何かを教えなくてはいけないと構えてしまう部分があると思う。

6. 閉会

横田生涯学習部参事兼社会教育課長より、閉会挨拶を行った。